

## 私のヒーロー

鈴木裕

子どもの頃から時代劇が好きで、テレビの時代劇もよく見ていた。

その中で特に気にかかったのが、渡辺謙さん主演のドラマ「仕掛人 藤枝梅安」であつた。

藤田まことさん主演の「必殺シリーズ」かと思いきや、細部が微妙に違う。よく調べてみるとこの「仕掛人 藤枝梅安」こそが作者池波正太郎さんの書いたオリジナルで、これを元に「必殺シリーズ」が作られたとか。

がぜん興味が出た私は講談社文庫から出ている藤枝梅安シリーズを古書店で買い求め全巻読破した。

読み進めていくと、藤枝梅安は自分と同じ40代。独身だが表稼業は腕のいい針医者で、患者が引きも切らない。

おまけに彼の身の回りには相思相愛のおもんさんが居る。親友の彦次郎や小杉十五郎と言つた仲間が居たりする。

そして自分の裏稼業である「仕掛け」に対しては、金目的というよりは、「世のため人のためにならないやつを始末する」という正義のボランティア精神で取り組む。

社会に、企業に裏切られ続けてきた就職氷河期世代の私。

パートナーを得ることも叶わず、親しい友人も少なく、世の中への鬱屈(うつくつ)や憤りを多く今も抱えている。

だから自分と同じ中年の独り身でありながらも恋人や親友に恵まれ、なおかつボランティア感覚で世にはびこる悪人どもを次々と仕掛

けする藤枝梅安の生きざまは、とても痛快で、まぶしく、憧れる人生に映つた。

また藤枝梅安が鬼平のように権力側の人間でなく、どちらかと言えば権力に逆らうアウトローであつたことが、余計に今の世の中に不信感を持つ私の心に食い込む一因となつたのではないかと思う。

こんな仕掛人藤枝梅安だが、作者池波正太郎さんの急逝により突然絶筆となつて終了している。

だが、私は藤枝梅安が仕掛けに失敗して殺されたり、官憲の手に落ちたりするよりも、よっぽど良いラストだと思つた。

なにせもう誰にも藤枝梅安を捕まえることなど出来はしないからだ。

この絶筆により藤枝梅安は私にとって不滅のヒーローとなつた。

作者 鈴木裕

題名 私のヒーロー

山陽新聞夕刊

2020.02.06 掲載